

平成 21年4月30日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006年度～2008年度

課題番号：18330052

研究課題名（和文） ユーロ域経済の分裂傾向とユーロの持続性に関する総合的研究

研究課題名（英文） A Comprehensive Study on the Split-ups in the Euro Area and the Sustainability of the Euro

研究代表者 田中 素香（TANAKA SOKO）

中央大学・経済学部・教授

研究者番号：20094708

研究成果の概要：EUの共通通貨ユーロは単一の政策金利をもつため、域内の高成長・高物価上昇国では実質金利が低くなり、低成長・低物価上昇国では高くなる。したがって単一金利は高成長と低成長とを強化し、悪循環となることから、ユーロの持続性に疑問が生じる。

本研究では、実質為替相場を考慮に入れることにより、そうした悪循環には抑制作用が働くことを明らかにした。また高成長・高物価上昇はユーロ域の経済発展の低い国に生じることから、キャッチアップを加速するプラスの面があることを実証的に示した。また悪循環が協調された21世紀初頭にはドイツがバランスシート不況という特殊な状況に陥っており、その影響が大きかったことも明らかにした。三年間の研究によってユーロ域の分裂は生じ得ないこと、ユーロの持続性には問題がないこと、また総合的な評価の必要性が明らかとなった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2007年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2008年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
年度			
年度			
総計	13,500,000	4,050,000	17,550,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・応用経済学

キーワード：欧州通貨統合、ユーロ、ダイバージェンス、バランスシート不況、ユーロ金融政策

1. 研究開始当初の背景

21世紀初頭、ユーロ域は独仏などコア諸国の低成長・低物価上昇率とペリフェリ諸国の高成長・高物価上昇率の2グループに分かれ、実質金利が分裂を強化するように作用するため、ユーロ域分裂あるいはユーロは持続できないとの評価が強まった（「金融政策決定論」）。

2. 研究の目的

本研究は「金融政策決定論」は一面的であり、生産面、制度面を合わせて総合的な評価が必要であるとの認識に立って、理論的・実証的な研究を進めることにした。

また目的を補完するため、ユーロに関連する諸分野の広範な研究も、研究代表者・分担者ともに進めることとした。

3. 研究の方法

実質金利の作用から論理を組み立てる「金融政策決定論」に対して、以下の点に留意しつつ、バランスのとれたユーロ論を提出することを目指した。

(1) 実質為替相場を導入して、金融政策決定論の一面性を明らかにする。

(2) 21世紀初頭のドイツの低成長の原因を明らかにして、ユーロ域分裂論の妥当性の限界を示す。

(3) 欧州通貨統合は当初から過小評価と過大評価がつきまとっていた。これらをともに批判し、バランスのとれた評価を提出する。

4. 研究成果

(1) 理論的には実質為替相場を導入した。実質為替相場は時間の経過とともに実質金利の作用と反対に作用し、悪循環を阻止する働きをするため、一方的にユーロ域の分裂あるいはユーロの持続不可能には進んでいかない。

(2) ECBの金融政策について、その成長率や為替相場への影響、テイラールールを用いた金融政策ルールへの推定、国際通貨としてのユーロのドルとの関係の確定などをシミュレーションをも用いて、実施し、(1)の結論を理論的・実証的に補完した。

(3) 実証的には、まずドイツの21世紀初頭の不況がバランスシート不況という特殊な一時的な不況であることを実証し、研究の背景となった金融政策決定論の想定する前提の一般的妥当性に疑問を呈した。なおドイツの成長率は2006年からユーロ域平均にまで上昇し、上記の検証を現実面から支持する結果となった。

(4) 研究分担者はそれぞれの分野で研究の最先端の成果を発表し、この分野の研究の進展に貢献した。またドイツ、スペイン、イタリアなど個別国の経済分析、アジアと中東欧諸国の比較などを行った点も本研究の成果といえる。

(5) 本研究は、ユーロ域の分裂に否定的な評価を下し、ユーロの持続性を支持した。しかし問題がないということではない。アイルランド、スペインなど高成長・高物価上昇率の国では2008年に不動産バブルが破裂に向かい、低すぎる実質金利の問題性が明らかとなった。この問題は、ユーロ域と世界金融・経済危機との関連を研究する中で、より掘り下げた研究として展開する必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 24 件)

1. 田中素香、「深刻な金融・経済危機のヨ

ーロッパ」、『世界経済評論』、Vol. 53 No. 3、6-21 頁、2009 年、査読なし。

2. 星野郁、「ヨーロッパの金融構造の変貌と金融危機」、『世界経済評論』、Vol. 53 No. 3、22-32 頁、2009 年、査読なし。

3. 細矢浩志、「拡大 EU ペリフェリ域自動車産業の展開」、『人文社会論叢』、第 21 号、19-35 頁、2009 年、査読無し。

4. 岩田健治、「なぜヨーロッパで危機が顕在化したのか?」、『世界経済評論』、Vol. 53 No. 3、33-45 頁、2009 年、査読なし。

5. 山口昌樹、「Trade Credit of Chinese Corporation: A Comparative Analysis」、『山形大学紀要(社会科学)』、第 39 巻 2 号、pp. 138-156、2009 年、査読無し。

6. 岩田健治、「世界的な取引所再編と OMX」、『証券レビュー』、第 48 巻第 9 号、20-40 頁、2008 年、査読無し。

7. 斎藤智美、「EU の東方拡大とユーロ」、『信用理論研究』、第 26 号、56-73 頁、2008 年、査読無し。

8. 田中素香、「ローマ条約 50 年—経済統合の回顧と展望」、『日本 EU 学会年報』、第 28 号、64-91 頁、2008 年、査読有り。

9. 高屋定美、「ユーロ・ドルレートの決定要因」、『関西大学商学論集』、第 53 巻 2 号、91-104 頁、2008 年、査読無し。

10. 高屋定美、「EU 高等教育政策の効果とそのガバナンスにおける課題」、『日本 EU 学会年報』、第 28 号、345-378 頁、2008 年、査読有り。

11. 八十田博人、「イタリアにおける欧州主義の理念と現実」、『聖学院大学総合研究所紀要』、第 41 号、234-256 頁、2008 年、査読無し。

12. 田中素香、「ユーロ経済圏の拡大と EU 経済の展望」、『日本貿易会月報』、12 月号、29-35 頁、2007 年、査読無し。

13. 田中素香、「EU の経済と単一通貨ユーロの現在」、『国際問題』、No. 561、50-56 頁、2007 年、査読無し。

14. 楠貞義、「スペインと移民 (2)」、『関西大学『経済論州』、第 57 巻 3 号、61-85 頁、2007 年、査読無し。

15. 楠貞義、「スペインと移民 (1)」、『関西大学『経済論州』、第 57 巻 1 号、19-35 頁、2007 年、査読無し。

16. 斎藤智美、「EU の東方拡大とユーロ」、『名城論叢』、第 8 巻第 2 号、47-68 頁、2007 年、査読無し。

17. 高屋定美、「経済通貨同盟とヨーロッパ化」、『関西大学商学論集』、第 52 巻第 1・2 号、29-46 頁、2007 年、査読無し。

18. 高屋定美、「Do EMU countries have the same business cycles?」、*Kansai University Business Review*、Vol. 9、3

- 月刊行、2007年、査読なし。
19. 山口昌樹、「アジアの国際シンジケート・ローン市場」、『アジア研究』、第53巻4号、56-73頁、2007年、査読有り。
 20. 山口昌樹、「インドの国際シンジケート・ローン市場」、『証券経済研究』、第60号、103-119頁、2007年、査読有り。
 21. 岩田健治、「EU（欧州連合）の新しい金融サービス政策」、成城大学『経済研究所年報』、第19号、15-41頁、2006年、査読なし。
 22. 細矢浩志、「EU 東方拡大と欧州自動車産業の生産分業ネットワーク」、『日本 EU学会年報』、第26号、232-259頁、2006年、査読あり。
 23. 斎藤智美、「ユーロ・ゾーン諸国とユーロ・エリアの経済的制度的結びつきと国際通貨ユーロ」、『名城論叢』、7-1、63-79頁、2006年、査読なし。
 24. 高屋定美、「ユーロ域内での各国物価の乖離要因」、『関西大学商学論集』、51巻1・2・3合併号、141-151頁、2006年、査読なし。

〔学会発表〕（計13件）

1. 川野祐司、「中東欧諸国はユーロの導入を急ぐべきか」、日本国際経済学会関東部会、2008年11月22日、神戸大学。
2. 岩田健治、「複数基軸通貨体制と国際通貨論の課題」、日本金融学会2008年度秋季大会、2008年10月12日、広島大学。
3. 高屋定美、「国際資金フローと国際通貨制度」、日本EU学会第28回大会（共通論題）、2008年10月11日、岡山県立大学。
4. 高屋定美、「Stock Market Turmoil and Macroeconomic disturbance in Japan」、Western Economic Association Int' 183th Annual Conference、2008年6月30日、Hawaii。
5. 山口昌樹、「中国の企業間信用」、アジア政経学会2008年度東日本大会、2008年5月24日、東京外国語大学。
6. 星野郁、「経済・通貨統合、拡大に伴うヨーロッパの労働市場と労使関係の変容」、日本EU学会第28回大会、2007年11月25日、神戸大学。
7. 高屋定美、「EU 高等教育政策の経済効果とガバナンスにおける課題」、日本EU学会大会（第27回大会）、2007年11月25日、神戸大学。
8. 田中素香、「ローマ条約50年—回顧と展望」、日本EU学会第28回大会、2007年11月24日、神戸大学。
9. 斎藤智美、「媒介通貨としてのユーロ」、金融学会中部部会、2007年11月17日、愛知大学。

10. 岩田健治、「欧州から見た取引所の世界的再編」、証券経済学会第67回大会、2007年6月10日、千葉商科大学。
11. 山口昌樹、「アジアの国際シンジケート・ローン市場—信用スプレッドの実証分析—」、アジア政経学会東日本大会、2007年5月26日、学習院大学。
12. 斎藤智美、「EUの東方拡大とユーロ」、信用理論研究学会、2007年5月14日、國學院大学。
13. 山口昌樹、「アジアの国際シンジケート・ローン市場—マイクロデータによる分析—」、日本金融学会春季大会、2007年5月12日、麗澤大学。

〔図書〕（計10件）

1. 高屋定美〔単著〕、ミネルヴァ書房、『EU通貨統合とマクロ経済政策』、2009年、205頁。
2. 高屋定美〔単著〕、関西大学出版部、『ユーロと国際金融の経済分析』、2009年、179頁。
3. 田中素香・岩田健治編著〔編著〕、有斐閣、『新・国際金融テキスト3 現代国際金融』、2008年、398頁〔第1・12章（田中）、第4章（岩田）〕。
4. 田中素香・馬田啓一編著〔編著〕、文眞堂、『国際経済関係論』、2007年、313頁。
5. 田中素香〔単著〕、日本経済新聞出版社、『拡大するユーロ経済圏—その強さとひずみを検証する』、2007年、338頁。
6. 川野祐司〔単著〕、三菱経済研究所、『最適通貨圏としてのユーロエリア』、2007年、104頁。
7. 星野郁〔共著〕、有斐閣、『グローバル・エコノミー』、2007年、326頁。
8. TAKAYA, Sadayoshi〔共著〕、IGI Global Publisher、『*Information Technology and Economic Development*』、2007年、225pages。
9. 田中素香・星野郁・岩田健治〔共著〕、大月書店、『金融グローバル化の理論』、2006年、336頁〔第6章 第1節EMS（星野）、第2節ユーロの挑戦（岩田）、第4節ドルとユーロ（田中）〕。
10. 田中素香・小森田秋夫・羽場久美子編〔編著〕、岩波書店、『ヨーロッパの東方拡大』、2006年、363頁〔第1章 東方拡大とEU経済（田中）〕。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 素香 (TANAKA SOKO)
中央大学・経済学部・教授
研究者番号：20094708

(2)研究分担者

楠 貞義 (KUSUNOKI SADAYOSHI)
関西大学・経済学部・教授
研究者番号：30067714

岩田 健治 (IWATA KENJI)
九州大学・経済学研究科 (研究院)・教授
研究者番号：50261483

細谷 浩志 (HOSOYA HIROSHI)
弘前大学・人文学部・准教授
研究者番号：10229198

本田 雅子 (HONDA MASAKO)
大阪産業大学・経済学部・准教授
研究者番号：50306073

斎藤 智美 (SAITO TOMOMI)
名城大学・経済学部・准教授
研究者番号：00292194

川野 祐司 (KAWANO YUJI)
東洋大学・経済学部・准教授
研究者番号：70385946

星野 郁 (HOSHINO KAORU)
立命館大学・国際関係学部・教授
研究者番号：30199476

高屋 定美 (TAKAYA SADAYOSHI)
関西大学・商学部・教授
研究者番号：60236362

山口 昌樹 (YAMAGUCHI MASAKI)
山形大学・人文学部・准教授
研究者番号：10375313

八十田 博人 (YASODA HIROHITO)
共立女子大学・国際学部・講師
研究者番号：70444502